

1 自己評価及び第三者評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2872800301		
法人名	社会福祉法人 日の出福祉会		
事業所名	グループホーム琴音		
所在地	兵庫県加古郡稲美町国安1256番地		
自己評価作成日	令和6年11月7日	評価結果市町村受理日	令和7年1月10日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/28/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 H.R.コーポレーション		
所在地	兵庫県西宮市甲陽園本庄町6-25-224		
訪問調査日	令和6年11月24日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

食事作り、掃除、洗濯、花の世話といった日々の家事仕事に加え、地域ならではの稲づくり、季節の催しなど、これまでの生活習慣や習わしを、できる限り琴音で再現、継続ができるように様々な取り組みを行っています。住み慣れた地域、なじみの関係性の中で、その人らしい生活ができるよう、お一人おひとりに合わせて支援をしています。毎日を元気に過ごしていただくためには、けがや病気にならないことも大切です。「安心・安全」な暮らしを継続していけるよう、スタッフ間で常に話し合い、専門職とも協力体制を作っています。2カ月に1度認知症カフェを開催しています。地域の方で介護でお困りの事や相談にも対応させていただいております。

【第三者評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

自然に恵まれた環境で、館内は広く明るく、清潔感・季節感・家庭的な雰囲気が感じられる。住み慣れた地域で、馴染みの関係・その人らしい生活が継続できるよう支援し、稲作活動(田植えから収穫)・認知症カフェ・琴池清掃活動・外出行事等で、利用者が地域とつながりながら生活できるよう取り組んでいる。各種会議・委員会・研修・訓練等を計画的に実施し、記録も整備されており、職員間の共有・連携が図られている。PDCAサイクルに基づいたケアマネジメントが行われ、担当者会議に可能な限り利用者も参加し、利用者の意向や現状を反映した個別支援に取り組んでいる。家族会に多数の家族の参加があり、家族との連携を大切にしている。医療連携体制を整備し、希望の応じて看取り介護にも対応している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および第三者評価結果

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎朝朝礼時にグループ理念、稲美苑基本理念、グループホーム琴音憲章を唱和し、適宜琴音憲章の意味合いについて、説明する等している。	法人理念・基本方針、施設の基本方針、グループホーム琴音憲章に、地域密着型サービスの意義を明示している。事務所・カウンターに掲示し、毎日の朝礼で唱和し共有を図っている。グループホーム琴音憲章は具体的な5項目を明示し、各項目を月替わりで唱和している。管理者がユニット会議等で事業所の取り組みや利用者支援について説明する際は、グループホーム琴音憲章と関連付けて説明し、理解を深め実践につなげるよう具体的に取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	年4回自治会の清掃行事である「琴池を愛する会」に参加している。天候にもよるが、ご利用者様も参加することもある。	自治会とのつながりが強く、運営推進会議、田植え・収穫でも協力を得ている。年4回自治会行事である「琴池を愛する会」に職員が参加し、可能な時は利用者も参加している。2カ月に1回、事業所内で認知症カフェを開催し、地域のボランティアが調理し、参加者と利用者が一緒に作品作成や食事を楽しみ交流している。認知症カフェに参加した家族からの相談に対応し、情報提供等を行っている。トライやるウィークの受け入れも再開している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	隔月で認知症カフェを開催している。介護予防の取り組みとしてボランティア(最高齢91歳)に調理を担当してもらっている。来所される認知症家族の相談や、本人様が地域とつながれる機会となっている。		

グループホーム琴音

自己	第三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1回役場職員、社会福祉協議会職員、自治会長様、民生委員様、ご家族様代表様に参加いただくようにしている。特に稲作では自治会長様、民生委員様から直接のご指導をいただくこともある。	家族代表・町役場介護保険課職員・自治会長・民生委員・社会福祉協議会職員(知見者)を構成委員とし、2か月に1回の開催している。会議では、資料と写真をもとに、運営状況(入居者状況・職員状況)、事故・ヒヤリハット事例、行事等について報告し、新型コロナ後の様子、新規加算算定等、時期に応じた議題について説明し、参加者と質疑応答、意見・情報交換を行っている。議事録は家族全員に郵送している。	運営推進会議の議事録は、個人情報に配慮した上で、議事録ファイルを玄関に設置する等、公開することが望まれる。利用者も運営推進会議の構成委員であることから、状況を勘案しながら、短時間参加も含め参加を検討することが望まれる。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	介護保険、介護報酬等の法令関係、事故発生時の再発防止等については密な報告、連絡、相談を行っている。このほか、運営推進会議において災害時の協力要請など声掛けもさせていただいている。	運営推進会議に町の介護保険課職員の参加があり連携している。報告・相談等があれば、電話・メールや訪問で町の担当窓口へ報告・相談を行い、適正な運営に取り組んでいる。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	直近2年間身体拘束の実績はない。ご利用者様の安全確保のため窓を回転式ロックで施錠している事例があり、町に相談。窓の施錠は問題ないと2023年1月5日に稲美町から回答をもらう。	「身体拘束廃止に関する指針」を整備し、身体拘束をしないケアを実践している。「高齢者虐待防止委員会・身体拘束廃止委員会」を、概ね月1回リーダー会議(管理者・介護主任参加)で実施し、その内年2回は、施設内のデイサービス事業所と合同で開催している。委員会では、行動制限につながる事例がないかの検証、未然防止に向けた取り組みの検討、スピーチロックへの注意喚起等を行っている。委員会の議事内容をユニット会議で報告し、ユニット会議の議事録回覧で周知を図り、サインで周知状況を確認している。研修は動画研修で年2回実施し、実施後書面でテストを行い習熟度理解度を確認している。ユニット入口・玄関は、夜間のみ施錠し、日中は開錠し、メロディセンサー等で安全確保している。	

グループホーム 琴音

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	年2回eラーニングによる研修受講、年1回の外部講師によるコンプライアンス研修の実施、事業所として「琴音不適切ケア防止目標」を設定し、半期ごとに振り返るようにしている。	「高齢者虐待防止に関する指針」を整備している。「高齢者虐待防止委員会・身体拘束廃止委員会」を上記の方法で実施し、不適切ケアにつながる事例がないかの検証、未然防止に向けた取り組みの検討を行い、議事内容の周知徹底を図っている。法人の取り組みとして「業務遂行状況の確認」「虐待の芽調査」を行い、ケアを振り返る機会を設けている。高齢者虐待防止についても、上記と同様の方法で、動画研修を実施している。また、施設内研修の外部講師による「コンプライアンス研修」を管理者が受講し、ユニット会議で伝達研修を行っている。管理者がユニット会議で「その言葉遣い、大丈夫ですか？」研修を行う取り組みや、「琴音不適切ケア防止目標」を事務所に掲示して周知を図り、職員個々が半期ごとに振り返りを行う取り組みも継続している。	
8	(7)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	令和6年10月には成年後見制度について全体が学ぶ機会を持った。	成年後見制度についても、上記と同様の方法で動画研修を実施している。成年後見制度利用の事例があり、事業所として制度利用を支援している。今後も、制度利用の必要性や家族等からの相談があれば、管理者が窓口となり関係機関と連携し支援することとしている。	
9	(8)	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時は対面で行う。解約実績はないが、改定事項はご家族様に説明の上変更同意書に署名してもらう。	入居相談・入居希望があれば、見学対応・パンフレットでの説明を行っている。契約時は、契約書・重要事項説明書・指針・同意書等を説明し、文書で同意を得ている。契約内容に変更が生じた場合は、変更前、変更後を明確にした書面で説明し、文書で同意を得ている。	

グループホーム琴音

自己	第三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	(9)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	新型コロナ発生後から開催が難しくなっているが、家族会を開催し、ご家族様の意見を反映させられるようにしている。本人様にはカンファレンスに参加などを通じて、暮らし方の意向を確認するようにしている。	家族会を再開し、今後も年3～4回の開催を予定としている。5月開催時は13家族14名の参加があり、事業所の取り組み等を説明し、意見交換を行った。家族の面会時や電話連絡時に近況を報告し、ラインを活用し写真でも情報を発信し、家族の意見や要望の把握に努めている。家族からの意見・要望は、各フロアに伝え個別に対応している。運営推進会議に家族代表の参加があり、職員や外部者に意見を表す機会も設けている。利用者の意見・要望は日々の会話の中で把握に努めるとともに、居宅サービス計画見直しのカンファレンスに可能な限り参加してもらい、計画や支援に反映できるよう取り組んでいる。	
11	(10)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	半期ごとの職員面談の実施に加え、会議の開催、随時の面談も実施している。	月に1回、各ユニット会議または合同ユニット会議を行い、運営・業務・利用者支援等について職員の意見・提案を反映できるよう取り組んでいる。議事内容は、議事録の回覧により全職員に周知・共有を図っている。日々の検討事項は主に朝礼で検討し、申し送り表やラインで共有している。定期的には年に2回、必要時は随時個人面談を行い、職員の意見等を個別に聞く機会も設けている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人事考課制度があり、半期ごとに評価している。契約、パート職員にも実績に応じた評価による昇給制度もある。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	介護福祉士、介護支援専門員受験の勉強会を法人が開催している。認知症実践者研修への参加、当番ブロック研修にも参加している。		

グループホーム琴音

自己	者	第三	項目	自己評価	外部評価	
				実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14			○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	二市二町グループホーム協会に加入し、定期的に開催される勉強会や発表会への参加をしている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15			○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前面接等において、本人様の生活状況把握に努めている。情報は入居以前にとりまとめ職員で共有している。		
16			○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族様や本人様としっかりと話し合い、入居前のニーズの聞き取りを行っている。入居後すぐは特に本人様が不安にならないようにコミュニケーションを大切にして信頼関係を築ける努力をしている		
17			○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	事前面接で得た情報をもとに、今どのような支援が必要なのかを見極めたサービスに努めている。		
18			○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	調理、掃除などを通じてともに暮らしを共にする関係性を作っている。季節の習わしも、直近では5月の田植、10月の稲刈りなど、職員が教わる場面もある。		
19			○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	できる限りご家族様にはご面会をお願いしている。面会時は本人様の普段の様子をお伝えするようにしている。本人様が不安なお気持ちを持ってらっしゃる時は、ご家族様にお電話でのご協力をいただくこともある。		

グループホーム琴音

自己	者	第三	項目	自己評価	外部評価		
				実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
20	(11)		○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	毎月ご家族様にお手紙を書かれる方、遠方にお住まいのご家族様とLINE電話をされる方、この度の衆議院議員総選挙では、応援する政党への投票も行った。	家族、家族の了承のもとで友人・知人の面会を再開し、居室でゆっくり面会できるよう配慮し、馴染みの人との関係継続を支援している。家族に毎月手紙を書く、家族とライン通話する等の支援も行っている。選挙の投票のための個別の外出支援を行った事例もある。一帰宅・理美容院・飲食店等、家族との外出で馴染みの場所との関係継続ができるよう準備・調整等を支援している。		
21			○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご利用者様同士の性格等を踏まえて、気の合う方と隣同士にさせてもらい、関わり合い、支えあえる環境を作っている。			
22			○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後も事業所に来ていただけるよう、お声掛けをさせてもらっており、以前は実際に来ていただいていた。コロナ以降はそういった機会は無くなっている。			
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント							
23	(12)		○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	各ご利用者様には担当がおり、カンファレンスでは計画作成担当者、担当職員、訪問看護師と意見をかわすようにしている。事例は少ないが、カンファレンスでは可能な限り本人様に参加してもらい、本人様にとってどうかを検討している。ご自身で気持ちを表現できない方についてはその言動から思いをくみ取れるよう努力している。	事前面談で把握した情報をアセスメントシートの「生活歴」「印象・性格」「一日の過ごし方」欄、日常動作スケールの「その他の特記事項」欄に記載し、利用者個々の暮らし方の希望、意向の把握に努めている。入居後に把握した情報は、利用者担当職員が作成するセンター方式の「私の姿と気持ちシート」、アセスメントシート・日常動作スケールへの追記等により記録している。カンファレンスファイルでアセスメントシート・日常動作スケール・センター方式のシートを回覧し、職員の共有を図り、計画や支援につなげられるよう取り組んでいる。思いや意向の表出が難しい利用者については、表情や言動から汲み取り、意向に沿った支援ができるよう努めている。		

グループホーム 琴音

自己	者	第三	項目	自己評価	外部評価	
				実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
24			○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	事前面接等で情報収集、共有をしている。入居後、収集した情報は個別にファイルし、いつでも閲覧可能となっている。入居時は可能な限りご自宅で使っていたなじみのものを持ち込んでもらうようお願いしており、これまでの暮らしから大きく変わらないように家族と協力している		
25			○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	書き物、創作、稲刈り、名言の配達、洗濯物、体操、家事仕事など、利用者様個々の能力に応じて本人のできることを実施している。その時の本人様の心身の状態を見極められるように、皆で話し合い、把握するようにしている		
26	(13)		○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	カンファレンスは可能であれば本人様、ご家族様の同席をいただき、介護支援専門員、リーダー、担当介護職員、訪問看護師、管理栄養士で話し合い、現在のご利用者様の状況を見極めてアイデアを出し合うようにしている。	アセスメントシート・日常動作スケールをもとに担当者会議を行い、初回の施設サービス計画を作成している。概ね1か月後にモニタリングを行い計画を見直している。その後は、必要時は随時、定期的には6ヶ月毎に、モニタリング表でモニタリング評価・アセスメントシートで再アセスメントを行い、担当者会議を行い計画を見直している。担当者会議は、介護支援専門員・介護主任・利用者担当職員・訪問看護師・管理栄養士の参加を基本とし、可能な限り利用者も参加し、利用者の意向を計画に反映できるよう取り組んでいる。家族の意向は事前に聴き取り、利用者の意向と共に議事録に記録している。「カンファレンスファイル」にアセスメントシート・日常動作スケール・担当者会議録・施設サービス計画書・センター方式シートを綴じ、職員に周知・共有を図っている。計画にもとづいたサービスの実施については、内容に応じて、介護記録や各種記録に記録し、計画と実施の連動が明確になるよう取り組んでいる。	

グループホーム 琴音

自己 者 第三	項目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
27	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	本人様のご様子、発言、取り組みは介護ソフトで記録に残している。各ご利用者様には担当職員を配置しており、その職員を中心に意見を取りまとめ、適宜介護計画を見直している。		
28	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	日常的に訪問看護師、管理栄養士と密な連携をとりながら取り組んでいる。ご利用者様の状態によっては療法士等からの助言をもらいながら、適切なケア、適切な福祉用具が提供できるように努力している。		
29	○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	毎年稲づくりをご利用者様と一緒に取り組んでいる。自治会長様や民生委員様から助言協力をいただくこともある。田植、稲刈りの工程は他事業所のご利用者様にも参加いただいている。		
30 (14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人様、ご家族様のご意向を踏まえ、訪問診療(内科・歯科)や受診で適切な医療が受けられるように密に連携を取っています。協力医療機関の選択は、契約時に説明を行い、ご家族様が自由に決定できるようにしています。現在内科の訪問診療は全員が希望され、専門的な診療が必要な方はご家族様に受診付き添いをお願いしている。	契約時に、事業所の医療連携体制、医療機関の選択について説明し、利用者・家族の意向に沿った受診を支援している。協力医療機関から内科(月2回)・歯科の訪問診療、訪問看護(週1回)を受けられる体制がある。他科については外部受診で対応し、家族の同行支援を基本としているが、状況に応じて事業所が受診・送迎支援を行っている。医療については、「医療連携体制加算、協力医療機関連携加算における情報共有連携記録」に記録し、「介護記録」にも入力し、職員間で情報共有を図っている。	

グループホーム 琴音

自己 者 第三	項目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31	○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護ステーションと医療連携をしております、週に1回の訪問看護、24時間のオンコール対応ができるようになっています。日常的に電話や画像付きのメールを通じて密に情報を共有し、適切な受診や看護が受けられるよう支援している。カンファレンスにも出席してもらい、助言を仰いでいる	/	
32	(15) ○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	急な入院時に適切な情報提供ができるよう、アセスメントシートを作成している。地域連携室と密な情報交換をし、早期退院に向けて相談するようにしている。退院前のカンファレンスにも参加し、本人様の状態把握、ご家族様のご意向、医師の説明をうけ、職員全体でも共有するようにしている。	入院時は、アセスメントシートに「直近の経過」を追記して、医療機関に情報提供している。入院中は、主に電話で地域連携室と情報交換し、早期退院に向け連携している。退院前カンファレンスがあれば参加し、内容をサービス担当者会議録に記録している。退院時は看護サマリーの提供を受け、退院後の支援に反映している。入院中・退院時の経過や状況については、介護記録・支援経過記録に記録し、職員と情報共有している。	
33	(16) ○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に「重度化した場合における対応及び看取りに関する指針」の説明を行い、同意を得ている。終末期は本人様の状態、ご家族様のご意向を十分聞き取り、説明をしたうえで看取り介護の同意書に署名をもらっている。最期の場面が近づけば、ご家族様に琴音で付き添いをお願いし、悔いなく最期の時が迎えられるよう支援している。	入居時に「重度化における対応指針」の説明を行い、「重度化対応・終末期対応についての同意書」で同意を得ている。終末期を迎えた段階で、利用者の状態の説明・家族の意向の聞き取りを行い、看取り介護の希望があれば「看取り介護に関する指針」を説明し、「看取り介護についての同意書」で同意を得ている。看取りに向けた居宅サービス計画を作成し、1か月毎に見直しを行っている。看取りが終了した後は、「看取りの振り返り」を関係職員が提出し、ユニット会議で共有している。動画研修で、ターミナルと看取り研修を行っている。	

グループホーム 琴音

自己 者 第三	項目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
34	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職員全員が緊急時の対応について、令和6年5月、6月に研修を受けている。事業所内では緊急時の対応についてマニュアルを作成し、いつでも確認する事ができる。	/	
35	(17) ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	事業所単独での訓練と、併設する特別養護老人ホームとの合同訓練を年2回実施している。備蓄は3日分、水、パン、レトルト食品を事業所内に保管している。感染症、自然災害BCPを策定し、それに準じた訓練も行っている地域との協力体制は実績がないが、運営推進会議で話し合いをしている。	火災対応の避難訓練を年2回、日中想定と夜間想定で実施し、避難訓練の後でBCP自然災害訓練を実施している。BCP自然災害研修は、年2回動画研修で行っている。令和6年度は、6月に夜間想定で通報・避難の訓練を実施し、利用者も参加している。令和6年11月に稲美苑の昼間想定での訓練に応援参加し、12月に事業所単独での昼間想定での訓練実施を予定している。訓練予定・実施記録・写真を研修報告ファイルに綴じて、全員が回覧してる。備蓄については、BCPの備蓄リストに沿って整備中である。事業所分の備蓄品は事業所内に備蓄し、管理者と介護主任が管理している。運営推進会議の中で、災害発生時の協力や訓練への参加等を依頼している。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	(18) ○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	事業所独自に「琴音不適切ケア防止目標」を設定し、半期ごとの振り返りをしている。不定期ではあるが「その言葉遣い、大丈夫ですか？」などの勉強会を通じて、ご利用者様の尊厳を損ねない言葉遣いについて学ぶ機会を設けている。	人格尊重・誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応について、動画研修でプライバシー・認知症・接遇・身体拘束・虐待防止に関する研修を行っている。また、管理者が、ユニット会議で「その言葉遣い、大丈夫ですか？」研修も行い、意識づけを行っている。「琴音不適切ケア防止目標」を事務所に掲示して周知を図り、職員個々が半期ごとに振り返りを行う取り組みも継続している。法人の取り組みとして「業務遂行状況の確認」「虐待の芽調査」を行い、ケアを振り返る機会を設けている。写真や映像の使用については、契約時に文書で同意を得ている。	

グループホーム 琴音

自己 者 第三	項目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の会話の中で、どのようにしたいのかを聞き出すようにしています。コミュニケーションが難しい方は表情や目を見てくみ取っていくようにしています。		
38	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	共同生活であるということと、安全面等への配慮からすべての希望に沿うことは難しいが、できる限りお一人お一人のペースを大切にするようにしている。具体的には、朝ゆっくり休みたい方、夜はそんなに早くに寝ずにおしゃべりしたい方など、様々なご希望にできる限り沿えるようにしている。		
39	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床時、お好きな洋服を選んでもらったり、髭剃りやお化粧品など、一人一人のニーズに合わせて対応しております。		
40	(19) ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	重度化が進んでいるフロアは食事を冷凍調理に切り替え、安全を最優先に取り組んでいる。別フロアではメニュー決めから調理、片付けまで一連をご利用者様と行っている。	食事は、各フロアの利用者の状況に応じた提供方法で対応している。重度化が進んでいるフロアは、委託業者から届く食事を温めて盛り付けて提供している。別フロアでは、献立作り・調理・盛り付け・配膳・後片付けを利用者と一緒に行っている。献立は当日に立てるが、1か月単位で管理栄養士が確認し、適宜助言している。炊飯は各フロアで行い、米は田植えから稲刈りまで行い、育てて食べる楽しみが持てるよう取り組んでいる。利用者個々に応じた食事形態については、ムース食は発注し、それ以外は各フロアで対応している。季節や行事に因んだ食事やおやつを提供、いかなごのくぎ煮や梅干しづくり、握り寿司の実演等、食事をより楽しめる機会づくりを行っている。	

グループホーム琴音

自己	者	第三	項目	自己評価	外部評価	
				実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41			○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士に助言を仰ぎ、量や栄養バランスについて検証をしている。水分量は一日の摂取量を把握し、職員間、訪問看護師、管理栄養士とも共有している。		
42			○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後は難しくなっている。歯科から指示が出ている方、ご自分でできる方には毎食後実施している。口腔機能が低下しないよう、毎日食前に嚥下体操を行っている。		
43	(20)		○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個別の排泄パターンを把握し対応している。重度化が進んでいるフロアは適宜対応することは難しくなっているが、パッドを併用しつつ、トイレにご案内することを継続している。夜間については安眠確保を優先とし、パッドを使用している。	排泄記録で利用者個々の排泄状況や排泄パターンを把握し、ニーズに応じて声掛け・誘導・介助を行い、昼間はトイレでの排泄が継続できるよう支援している。夜間は、安全・安眠に配慮し、個別の方法で対応している。介助方法や排泄用品について検討事項があれば、主に朝礼で検討し、申し送り表やライン、またはユニット会議で共有している。	
44			○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便の有無や日数については、毎日メモを作って更新、共有し全員で把握している。食事面ではヨーグルトやオリゴ糖などを個別に使用している。対応が困難な場合は看護師、医師と相談し服薬調整を行うようにしている。		
45	(21)		○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	特に入浴日の設定はしておらず、週に2回を目安に進めている。安全面への配慮で入浴実施時間は日中のみとし、それ以降はリスクが伴うため実施はしない。季節のお風呂(しょうぶ湯・ゆず湯)などが楽しんでもらえるように企画もしている。	1階フロアは一般浴槽で、2階フロアにはリフト浴もできる設備がある。入浴チェック表で入浴状況を把握し、体調や意向に応じて柔軟に対応しながら、週2階入浴できるよう調整している。個浴対応し、一人ひとりのペースでゆっくり入浴できるよう支援している。また、しょうぶ湯・ゆず湯等で季節感を楽しめる工夫もしている。	

グループホーム 琴音

自己 番号	項目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	認知症状や身体状況に応じて、朝にゆっくり寝たい方、夜早くに寝たい方、昼寝をしたい方など、昼夜逆転にならないよう配慮しながら対応している。夜間はセンサーを活用し、本人様のペースで安全に行えるよう環境を整えている。		
47	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	お薬情報はファイルにまとめて、いつでも閲覧可能となっている。服薬の変更の都度、記録や、連絡帳、申し送り表を通じて、いつから変更になったかを見直すことができるようにもしている。服薬事故防止のため、複数名の確認作業をマニュアル化している。副作用の理解については、従事日数の少ない職員ほど難しいこともある。		
48	○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	階段を使って2階にお手紙等を配達に行く方、毛筆、塗り絵、計算問題、家族との文通、散歩など気分転換ができる支援をしている。		
49	(22) ○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	定期的な散歩や、行事ではホテル観賞、稲美苑園庭の花見など、季節ごとに外出の機会を設けている。6月には他事業所との交流で田植えを合同で行った。	定期的な散歩や稲作活動(田植えから収穫)等で、日常的に戸外に出かけられるよう支援している。ホテル観賞・花見・イルミネーション鑑賞・コスモドライブ等、季節を楽しむ外出機会も設けている。利用者個々の希望に応じて、選挙や外食等への個別の外出支援も行っている。家族との外出も支援している。	
50	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	施設の方針として、原則金銭の持ち込みはご遠慮いただいている。その方の状況によっては管理者が金庫で保管する事例もある。		

グループホーム 琴音

自己	者	第三	項目	自己評価	外部評価	
				実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51			○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	事業所のタブレットを利用してLINE電話をされる方、毎月家族に手紙を書く方もいらっしゃいます。毎年年賀状を送る機会を設けている。	/	
52	(23)		○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	整理整頓を心がけ、常に衛生的に保つようになっている。リビングには季節の飾り物、その時期の行事の写真を掲示するようにしている。ペランダには季節の花を植えて、ご利用者様と一緒に手入れもしている。採光についても季節ごとにカーテンの開閉時間を変えるようにしている	共用空間に広いリビングダイニング・和室・長く広い廊下・ひだまりコーナー等があり、明るく広い生活空間が確保されている。和室には床の間・掘りごたつがあり、なつかしい雰囲気を感じられる。6S活動を周知し、また、清掃専従の介護補助職員の配置があり、掃除・整理整頓が行き届き清潔感がある。季節の飾り・行事の写真・書道等を掲示し、ペランダで季節の花を育てる等、季節感を大切にしている。利用者個々の状態に応じて、共用空間で集団・個別レクリエーション、家事作業、廊下歩行等に参加し、楽しみや役割づくり、機能低下予防できるよう支援している。	
53			○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングでは気の合う方、お話の合う方が隣同士になるよう配慮している。中には一人で過ごすことを好まれる方もいらっしゃり、個々に合わせた対応をしている。	/	
54	(24)		○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	各居室には個々に書かれた表札がある。ご入居の際は、できる限りこれまでと同じレイアウト、これまで使っていた家具のご持参をご家族様にお願いしている。各居室には飾り棚があり、思い出の品や作品を飾っている。	各居室に、ベット・洗面台・エアコン・カーテン等が設置されている。離床キャッチも設置して離床状況を把握し、安眠を妨げないトイレ誘導や安全な移動介助に活用している。たんす・テレビ・寝具・仏壇・家族の写真等、使い慣れたもの・馴染みのあるものを持ち込み、自作の作品や職員からプレゼントされたカード等も飾り、居心地よく過ごせる環境づくりを行っている。居室入り口の飾り棚にも思い出の品や作品を飾り、部屋間違いの防止にもつなげている。担当職員を配置し、家族と連携しながら、衣替えや環境整備を支援している。	

グループホーム 琴音

自己 者	第三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	張り紙などを掲示し、分かりやすくする工夫をしている。歩行状態が不安定、目が悪い方も安心して移動ができるように、ご利用者様の動線、アプローチは安全に行えるようにしている。		